

■ 長崎県雲仙市の概況

- ・ 長崎県の南東部、島原半島の北西部
雲仙普賢岳を取り巻くように位置
- ・ H17年10月に7町合併
- ・ 人口 42,695人 (R3.2末現在)
- ・ 面積 241.31km²
- ・ 農業産出額 244.7億円
(長崎県内1位)



■ 観光について

- ☆雲仙国立公園（1934年 日本初の国立公園に指定）
雲仙天草国立公園（1956年 天草地区編入）

- ☆島原半島ジオパーク（2008年 日本ジオパーク認定）
島原半島ユネスコ世界ジオパーク（2009年 日本初の世界認定）
第5回ジオパーク国際ユネスコ会議（2012年 島原半島で開催）

- ☆ほっとふっと105（日本一長い105mの足湯）

- ☆小浜温泉の熱量（日本一）
※源泉温度105℃×1日湧出量15,000トン＝熱量

- ☆平成新山（日本で最も新しい山）

- ☆雲仙ゴルフ場（1913年 日本初のパブリックコース）



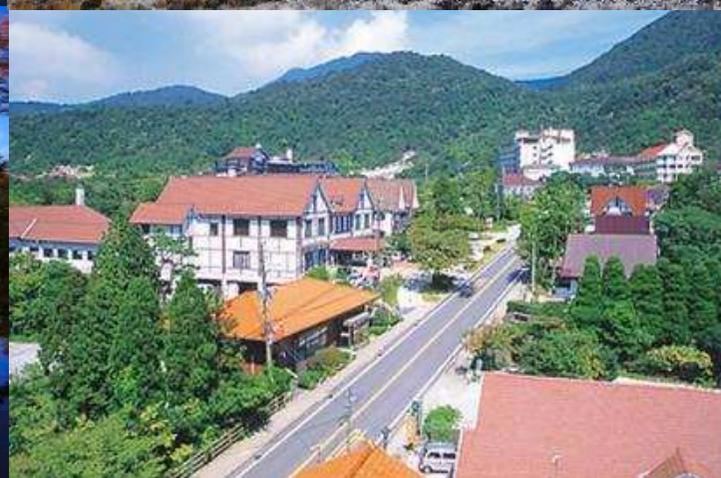
10年後の雲仙

島原半島とともに「6日間滞在できる雲仙」となることを目指して、雲仙市内において様々な取り組みを実施するほか、島原半島における連携を目指しています。



■ 国立公園「雲仙」

長崎県雲仙市 



■ 雲仙の四季

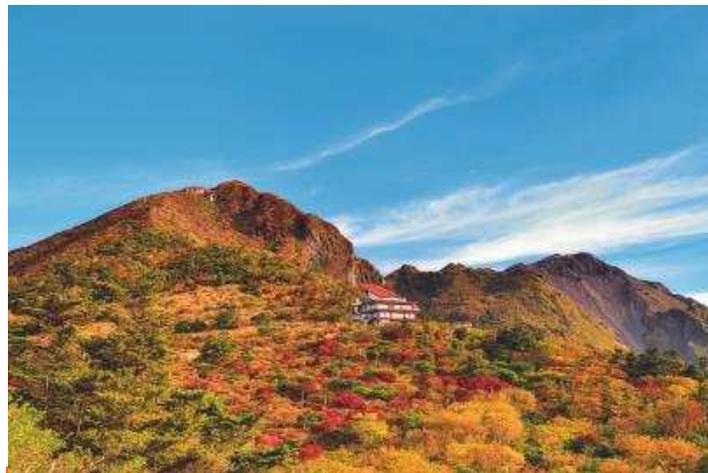
長崎県雲仙市 



春 spring



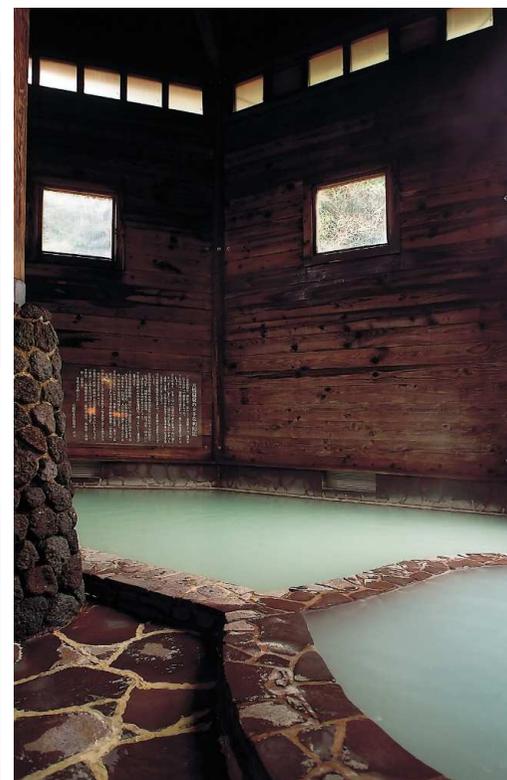
夏 summer



秋 autumn



冬 winter



魅力

- 長崎県一の農業生産高
- 世界でも稀な食材の生産集積地（オーガニック、伝統野菜）
- 普賢岳山頂1400m～海0mまでが一つの自治体に
- 山頂域は日本初の国立公園
- 周囲は性格の違う2つの海（遠浅の有明海、急に深い橘湾）
- 火山の恵みでもたらされた、温泉街や肥沃な農業地帯
- 自然と人が共に作り上げてきた景観や暮らしや信仰がある

課題

- 小中学校の廃校もあり、このまま行くと10年後には、雲仙市の人口は7100人減、消費額95億円のロス。
- 観光と他産業の連携が脆弱で、体験プログラムやアクティビティのニーズにも応えられていない。
- 地元プレーヤーの不足・高齢化、連携するパートナー不足、地域のノウハウ不足。
- 加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で、市の主要産業である観光業は大きな岐路に立っている。

雲仙市側

2大産業の農業と観光等すばらしい魅力があるのに、プレーヤー不足、ノウハウ不足で、生かし切れていない



都市側

個人：健康・安心安全、生き甲斐、自分らしい生き方・働き方へのニーズの高まり

企業：三密・通勤を避けリモートワークの推奨、高額な事務所維持経費の削減



**地方と都市の交流によるオープンイノベーションで地域課題解決！
ソリューションの創出！相互に学び、高め合う場所づくり！**

目指すべき将来像：地域内外の人の気持ちの良い交流・交友関係づくり！

**雲仙市をチャレンジできる場所に！そして、地域も元気に！
住む人も、働く人も、関わる人も、訪れる人もHAPPYに！**

(雲仙ファンづくりから、移住定住・多拠点居住なども含めた関係交流人口の増加へ)



オープンイノベーションのプラットフォーム構築が必要！！

オープンイノベーションのプラットフォームとして

設立目的

- 【雲仙側】オープンイノベーションにより、**地域課題を解決**を目指す。
- 【都市側】雲仙の地域課題を事例に、**アイデアの種を生み出したり、ソリューションに磨きをかけ、ビジネスの成長**を目指す。
- 【共通】これらを通して、**関わる人材の育成や企業の価値向上**を目指す。

なぜ雲仙で

- ▶雲仙市観光戦略において、**地域の課題が洗い出され、その解決に向けたワーキングが活動し、各種プロジェクトが推進**されている。
- ▶地域に、**関わる熱い人々**がいる。
- ▶長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォーム構築の機運の高まり。

雲仙側のニーズ

- 課題を解決したい…
- 問題意識はあるが、何が課題かわからない…
- どこに相談してよいかわからない…
- 課題解決のための新たな考え方やノウハウを学びたい…
- ビジネスベースに持っていきたい… 等々

雲仙側に期待される効果

- 普段出会えない人や考え方・ノウハウに出会える！
- 地域課題の解決が図れる。
- アイデアが、ビジネスになる。
- 人が育つ。雇用が生まれる。
- 産業が活性化し、地域の持続可能性が高まる。
- 関わる人が増え、観光地としての幅が広がる。

～魅力的な課題がここにはある～

雲仙大学

(バーチャル大学)

雲仙での地域課題解決に参加することにより、
雲仙側・都市側の両方の
関わる人や企業のレベルアップを目指す
仮想大学

地方と都市の交流による
オープンイノベーションでの
Win-Winの地域課題解決型
ソリューション創出実践大学

都市側のニーズ(企業、組織、学生)

- 地域のリアルな課題にふれたい…
(その中でも、本気の地域と関わりたい)
- そこで、地域と共に、ソリューションの種を、**ビジネスに昇華**させたい…
- その過程で、地域課題のような複雑系の課題に
対処できる人材を育成したい…
- それが、地域貢献にもなれば… 等々

都市側に期待される効果

- 普段出会えない地域の人や課題に出会える！
- ビジネスの種を見い出したり、ソリューションの磨き上げ、**ビジネスモデルの構築**につながる。
- 生み出されたソリューションを、他地域に横展開できる！
- 地域課題のような複雑系の課題に対処できる人や企業になる！
- 自分事に置き換えて、想像できるようになる！

スケジュール

令和3年度(前半)

- ① 参加者に、雲仙側が課題(魅力を生かしていない)と考えていることを伝える
- ② 参加者とともに、各課題の現場と、それを何とかしようとしている熱い人たちに会いに行く
- ③ 今後、様々な人に、「参加したい」「関わりたい」と、思ってもらえるように、課題(問い)をブラッシュアップする
- ④ その課題を、教室・ゼミと見立て、雲仙観光地域づくり大学のカリキュラムとする

令和3年度(後半)

- ① 雲仙観光地域づくり大学の開校
- ② 課題解決に向けた取り組みを行い、関わる人がレベルアップしていく
- ③ それに魅せられて、関係する人が増えていく

令和4年度以降

- ① 地域課題の解決も図れ、好循環が起こっていく
- ② 島原半島内でも、関わる人(課題を持ち込む人)が増えていく
- ③ 長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォームの一翼を担う

- 地域の人が、課題を持って参加したくなる場に！
- それら課題を、**地域内外の交流で、ブラッシュアップする**場に！
- それら課題を**解決するためのソリューションを生み出し、磨きをかけ、人が育つ**場に！
- 地域の高校生などにも参加**してもらえるような場に！
- 魅力的な課題設定(問いの立て方)自体も、**学ぶコンテンツ**になる！

…

みなさんに取り組んでいただきたいこと

今回は『雲仙大学』のトライアルです。

地域の事業者から「もやもや」を聴き、みなさんなり（チームごと）に課題を抽出してください！

もやもや（なやみ）例

- ・魅力的なのに、伝わっていないなやみ。
- ・商店街に元気がない。後継者がおらず、年配者で新たなチャレンジができないなやみ。
- ・温泉地特有の苦勞がある（電化製品が壊れやすい、温泉配管のメンテナンスが大変etc）。
- ・観光と一次産業の連携、観光の域内波及効果向上にかかるなやみ。
- ・種どり農家が減少している。野菜の域内流通、地産地消が進んでいない。
- ・持続可能な観光地域づくりを推進する組織（DMO）の構築及び効果的な運営にかかるなやみ。など

チームごとに、課題を踏まえ、地域ともディスカッションいただきながら、具体的な解決策を検討し、発表いただきたい。

課題解決に至る道筋をつけていただくことはもとより、その過程で、参加者の皆さんも、地域も、お互いに成長したり、今後を見据えた継続的な関係性が構築できれば幸いです！

雲仙の今の取り組みをチェック♪

雲仙市観光戦略

『全員集合！雲仙ポータル』

<https://www.unzen-portal.jp/>

昨年6月に策定した「雲仙市観光戦略～雲仙温泉編～」では10年後を見据えた目標を掲げ、雲仙温泉を中心に課題解決に向けた様々な取り組みを進めています。

その取り組みを「見える化」し、プロセスを共有するための情報発信サイトです。

情報発信にあたっては、観光戦略のワーキングメンバーをはじめ、雲仙が好きの人、地域振興に興味がある人、ワーケーションに興味がある人など、それぞれの関わり方で雲仙温泉を盛り上げる仲間たちが、記事・写真・動画により行います。

「雲仙ポータル」により、雲仙市観光戦略を多くの人に知っていただき、雲仙をより身近に感じていただくと共に、雲仙の進化を共に喜んでいただけるような場になるように運用していきたいと考えています。

ぜひご覧ください⇒



本日公開! 雲仙市観光戦略 情報発信サイト

全員集合! 雲仙ポータル

雲仙市は、本日2月26日(金)14時、ホームページ「全員集合! 雲仙ポータル」を公開いたします。

「雲仙ポータル」は、現在雲仙温泉を中心に取り組んでいる雲仙市観光戦略～雲仙温泉編～の具現化に取り組んでいる様子をわかりやすく情報発信するために特化した情報発信サイトです。

雲仙温泉は、雲仙市観光戦略で定めた約10年後の「雲仙のあり方」を目標としたビジョンに成長しています。活潑な雲仙の動きを「見える化」し、そのプロセスを共有するための情報発信サイトです。記事、写真、動画で発信いたします。

かつて雲仙温泉は、長崎の世界的な観光地として日本で最大の温泉地として指定されました。現在、雲仙温泉には人口減少やコロナ禍などの影響があります。そんな中で、ありたい姿を通して、今一歩前進させたいという思いをいたしたことが大発想のしりぞきです。

発案者としての期待は、約20名、雲仙温泉の方々だけでなく、市役所職員、雲仙に仕事で関わる方、さまざまな業種のクラウドファンダーなど、支えあつたメンバーが更新していきます。どんどん仲間が増えるたびに更新者も増やしていく予定です。

雲仙を前に感じている方、雲仙の進化を共に喜んでいただける場になるように運用します。

情報発信サイト「雲仙ポータル」と雲仙市観光戦略について多くの方に知っていただくべく、ホームページにQRコードを掲載いたします。

<https://www.unzen-portal.jp/>

皆さまを雲仙市でお待ちしております♪